

こどもの日

5月5日は、こどもの日ですね。

この日はもともと、五節句の端午の節句にあたります。
今回はこの端午の節句についてお話ししたいと思います。

● 端午の節句の意味

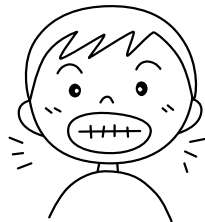
端午の端は「はじめ」という意味で、「端午」は5月最初の午の日のことでした。それが午という文字の音が五に通じることから、奈良時代以降、5月5日が端午の節句として定着していきました。

● 飾り物

< 鎧兜 >

鎧兜は武家社会から生まれた風習です。身の安全を願って神社にお参りする時に、鎧や兜を奉納するしきたりに由来しています。鎧や兜を“戦争道具”と受け取る考えがありますが、武将にとっては自分の身を護る大切な道具であり、シンボルとしての精神的な意味がある大切な宝物でした。

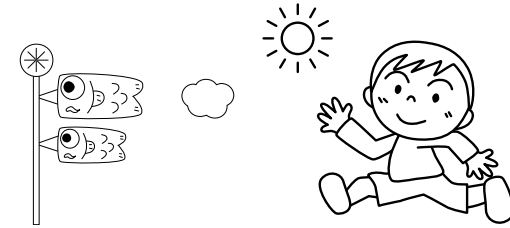
現在は、鎧兜が「身体を守る」ものという意味から交通事故や病気から大切な子どもを守ってくれるようにという願いも込めて飾ります。



< こいのぼり >

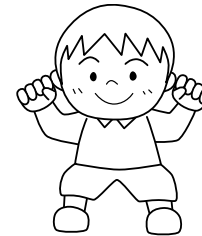
こいのぼりは、江戸時代に町人階層から生まれた節句飾りです。鯉は、清流や池、沼でも生息することが出来る非常に生命力の強い魚です。

その鯉が急流をさかのぼり、竜門という滝を上る竜になって天に登るという中国の伝統にちなみ、子どもがどんな環境にも耐え、立派な人になるようにとの立身出世を願う飾りです。



また、端午の節句と菖蒲は切ってもきれないものです。菖蒲は、悪鬼を払うと言われ昔から端午の節句に使われています。家の屋根や軒先にさしたり、菖蒲枕といって枕の下に敷いたりします。また、お風呂の中に入れて菖蒲湯にして入ります。

いずれも、身体に悪い気が付くのを防ぐという意味から使われるならわしです。



こどもの日のごちそうには、鯉やちまき、柏もちがつきものです。
ご家庭でもお子さんと楽しいこどもの日をお過ごしください。